

にほしま

第 25 号

Feb. / 2021

令和 3 年 2 月



ハワイ移民資料館

仁保島村

T 734-0026 広島市南区仁保三丁目 17-6
NIHOJIMAMURA TEL&FAX 082-286-6331

ホーメページ

<https://hawaiiniho.com>

kawasaki1885@yahoo.co.jp



移民の風景

広島県

佐伯郡

廿日市市 宮内・地御前・串戸市民センター3館共催事業
講演「知られざるハワイ移民史」配布資料

勧内第一二一四號

戸長

布哇國出稼移住方ノ義ニ付義ニ及示談候趣モ有之既處右ハ差當リ一千三百人ヲ要シ年齡四十歳未満ノ農夫ニシテ砂糖製造若クハ他ノ耕作勞動ニ堪ヘ候者ヲ選ヒ八百名程先ツ第一著手ニ明治一月廿日横濱港ヨリ渡航爲致候趣且ツ其出稼人ハ妻子携帶ノ者ニテモ不苦各其本籍ノ地ヨリ同港迄ノ旅費ハ自辨ナレヒ別ニ前金借用ノ定メモ有之又同港ヨリ該國ホノル、府迄ノ渡航費用ハ一切該國政府ヨリ支辨シ着ノ上ハ相當ノ宿處食料等ヲ付與シ其外ニ本人ヘ一ヶ月九弗其妻ヘ同六弗宛ノ給料ヲ拂渡シ三ヶ年間農夫ノ業ニ就カシノ候義ニ有之候條部内ヘ懇諭ノト移住人貲年齡等取調來ル九日限り可申出尚巨細ノ義ハ志願人於テ當廳ヘ出頭ノ上相尋子候様可取計此旨相達候事但本文期日マテニ何等申出サル村方ハ右ニ關係燃之ト可見做候事

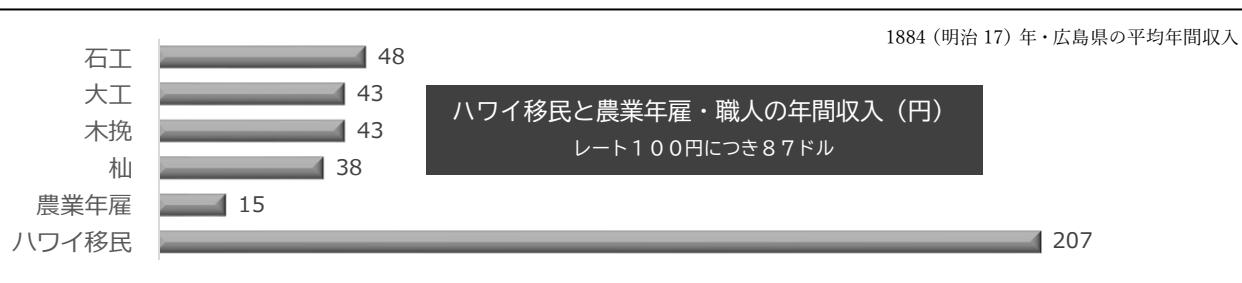
明治十七年十二月三日

佐伯郡長山口光風

廿日市市教育委員会蔵

夢のような雇傭条件。地方官諮詢会で「ハワイ国移住民募集」を知られた広島県令千田貞暁は、県民の生活建て直しと、逼迫した県財政を好転させる絶好の機会と捉えた。県内市郡長に公布を指示したが、締切までに残された日数はわずか1週間。

1885(明治18)年1月27日、廿日市町32人・平良村20人・原村15人、計67人が見知らぬ国、ハワイ国へと、横浜から旅立った。



財政と経済の悪化

財政の健全化の前に立ちはだかったのは、国家歳入の31.8%を占めた家禄・賞典禄・社寺禄の存在であった。政府は確かに歳入として、炭鉱・製糸・紡績・各種鉱山・造船などの官営事業を起こしたが、残されたのは過大な投資の負債の山であった。

1876(明治9)年国立銀行条例が改正され、全国に153の国立銀行が誕生した。地方経済の活性化に寄与した反面、資本金の80%まで紙幣の発行を許可されたため、発行高は巨額となり紙幣価値が下落した。

1877(明治10)年西南の役では、国家予算の81%という莫大な戦費を投入、そのため大量の不換紙幣を発行。ここに来て一段と紙幣価値は下落し、激しいインフレーションが起きた。

1881(明治14)年、大蔵卿に就任した松方正義は「官営事業の払い下げ・中央政府支出分一部を地方税に転嫁・不換紙幣の整理と紙幣発行種の統一・日本銀行の創設・醤油、菓子税の新設・酒造税、たばこ税の増税」など次々と財政の再建策を打ち出した。

その結果、紙幣価値は安定したが急激な物価下落が起きデフレーションとなり深刻な不況に陥った。

翻って、1873(明治6)年政府は歳入の安定化のため、農民による納税制度を改革、地租改正に着手した。

「地積を測量、地目を定め地目別に地価を算出、地価の3%を地租」として「物納から現金納付にする」というものであった。

農民は作物の豊凶や市場価格の変動にも拘わらず、一律課税された。

インフレーションからデフレーションと大きく上下する二つの嵐は農民を翻弄。加えて、特産品の綿花・綿製品の不振と米価の暴落、その上、田地価格の下落という三重苦が農民たちを苦しめた。

江戸時代の歳入額を前提にした地租納付を迫られて、この時代、最大の被害者は農民たちであった。

早くから農村不況を心配した広島県は、北海道移住にその活路を求めた。

農民一人あたりの農地1反37歩、全国平均2反2畝40歩の半分以下である安芸国は零細な農民が多かった。

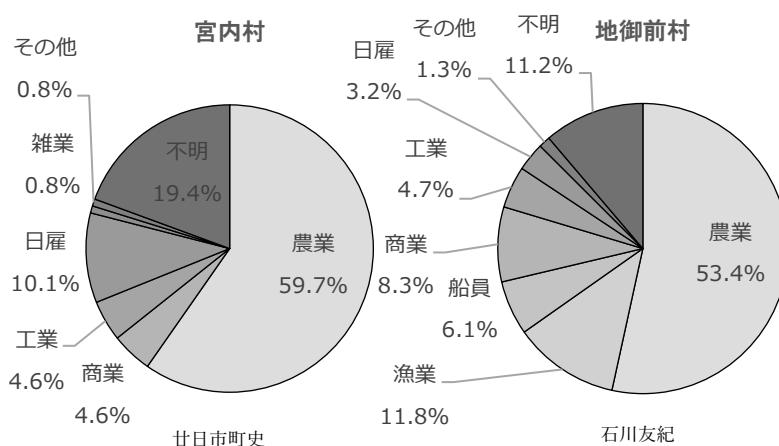
でっかい農地で思う存分百姓ができる。ハワイ移民が始まる前の3年間、広島県からの移住者は全国上位を占めた。

1890(明治23)年から再び増加に転じた。注目すべきである。

廿日市町役場「宮内村雑書綴」に北海道転籍移住民10人が戸長あてに提出した1885(明治18)年1月付の誓約書がある。「移住民全員が共助し、官の保護を受けるようなことは致さず」視点を変えれば、送り出す行政が移住する村民の新天地での生活を思いはかっていることの証しと言える。

ハワイ移民と併せて、北海道移住にも思いを巡らせたい。

官約移民の職業別割合



※木挽（こびき） 伐り出した木を材木に挽く職業の人

※杣（そま） 立木を伐り倒す職業の人

※農業年雇 農家に雇用されている同居人で年間150日以上従事している人

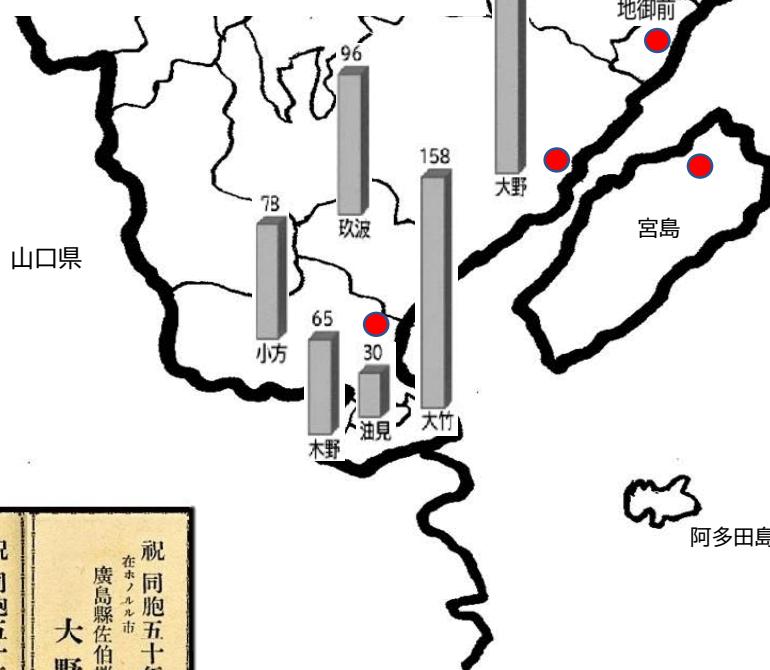
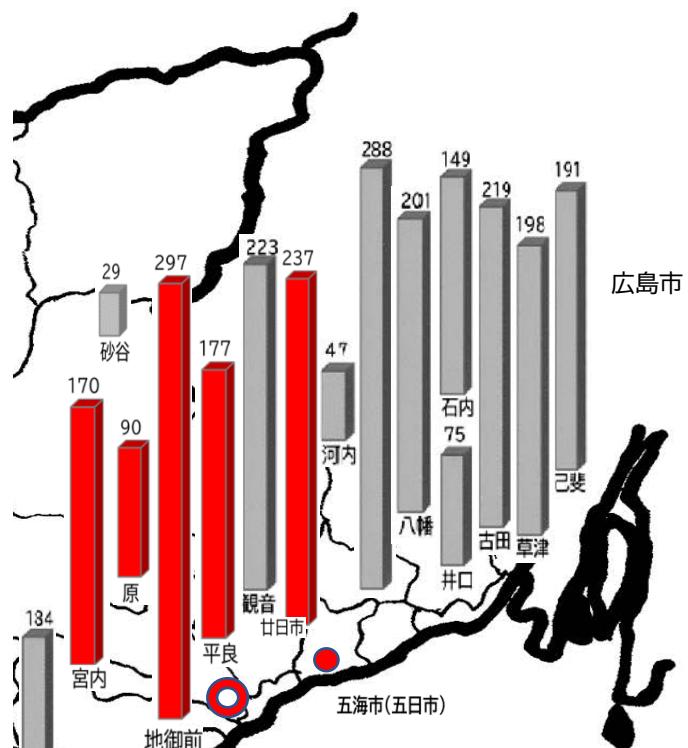
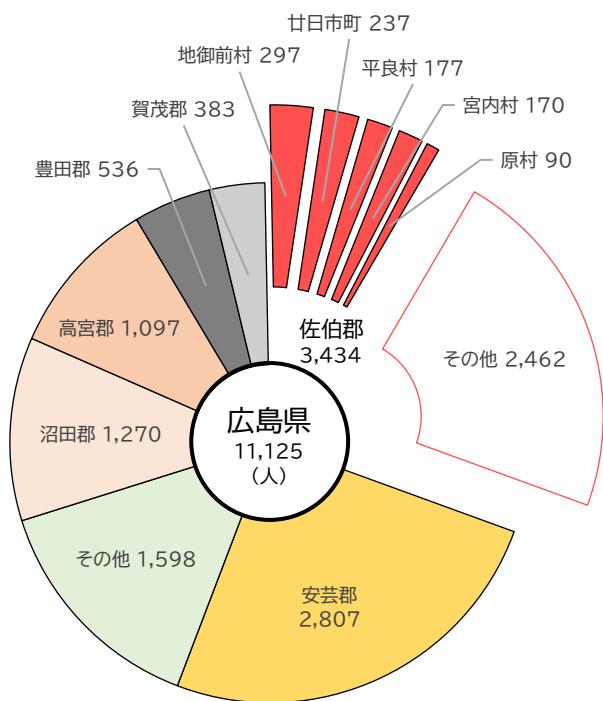
※国立銀行条例 国営の銀行ではなく、国が定めたこの条例に基づいて設立された銀行

年次	戸数	人数
1882(明治 15)	70	330
1883(明治 16)	107	492
1884(明治 17)	159	635
1885(明治 18)	98	455
1886(明治 19)	75	360
1887(明治 20)	21	81
1888(明治 21)	17	83
1889(明治 22)	14	52
1890(明治 23)	43	125
1891(明治 24)	82	181
1892(明治 25)	213	810
1893(明治 26)	363	1349
1894(明治 27)	359	1374
1895(明治 28)	262	878
1896(明治 29)	258	901
1897(明治 30)	261	704

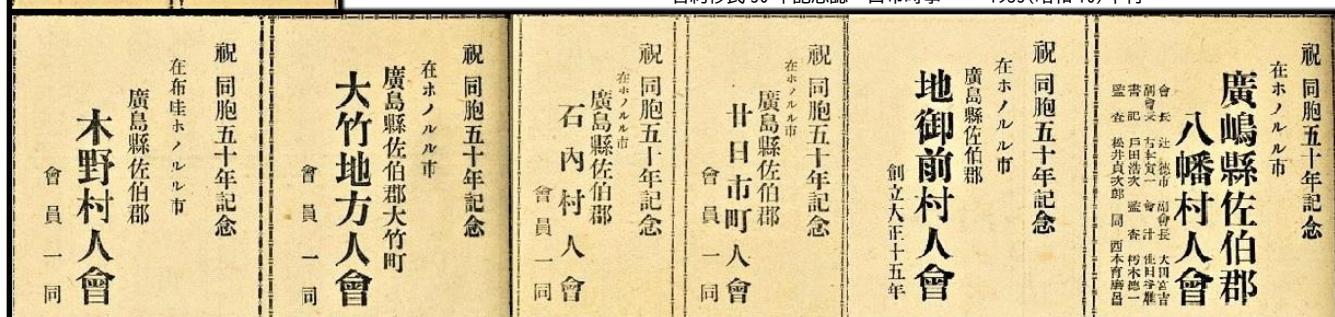
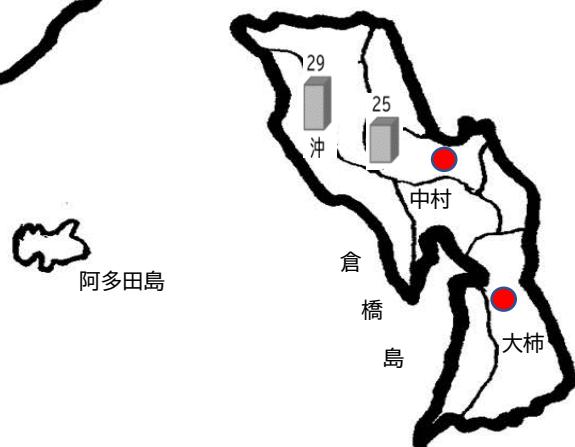
日本帝国統計年鑑

移民送出の分布図

1885(明治18)年—1894(明治27)年



村上銀行
本店 ●
支店・出張所 ●



官約移民50年記念誌 日布時事 1935(昭和10)年刊

当館蔵

小林卯之助

徳は孤ならず必ず隣あり（論語）



1885(明治 18)年 31 歳で戸長、1888(明治 21)年に助役に推された卯之助は、村内出身の移民たちから継々と送られてくる多数の送金を目の当たりにし、アメリカとハワイには、大きな可能性を秘めている社会があると強く引き付けられた。

おりしも、カリフォルニア州立大学で美術を学んでいた伯父の小林花吉(千古)と手紙のやり取りをする内に、「アメリカには夢と理想がある」と確信、1890(明治 23)年 8 月花吉を頼りに単身渡米した。

州内を旅して商業・風俗・人情をつぶさに観察。当時在住の日本人は少なく、彼の行動は先々で注目を浴びた。その後、日本人経営のぶどう園で 4 力月間労働を体験。翌年ハワイに新天地を求めて転航した。

ハワイでは、カウアイ・マウイ・ハワイ島を周り、実業家として生きることを決心。ホノルルを活動拠点と定めた。商社である南有社に職を得ると店員 2 人を同行させて出張販売の島巡りに出発。日本人労働者を相手の商売は目論見が的中、多額の利益を得たが、同行の 2 人が酒と博打に費消。この時、卯之助は極度の人間不信に陥った。

気落ちした彼に幸運が舞い込んだ。旅館開業の話しであった。話しへトントン拍子で進み、1892(明治 25)年スミス街で開業することになった。屋号はハワイ屋。2 年後には雑貨店を併設、商売は上昇気流に乗った。

労働期間を終えた帰国者は、必ずホノルルに宿泊。加えて各島からの来府者の需要があり、旅館業は間違いなく将来の有望株であった。その後、私約移民の時代を迎えると、ホノルルを基地として往来する移民達が急増し、資本蓄積の機会となった。この頃から旅館は、乗船手配・総領事館・ハワイ官公庁への諸届など手続きに不馴れな移民たちのためにその代行をするようになった。

ところが、順風満帆であった旅館事業に災難が襲った。1899(明治 32)年 12 月 2 日ペスト患者が発生。ハワイ衛生局は予防・絶滅対策に万全の体制を敷いたが拡がる一方、最後の手段である家屋の焼払いを決断した。ところが折からの強風にあおられてマウナケア・スミス・ベレタニア街を全焼、日本人 3589 人・支那人（当時の呼称）・ハワイ人 3100 人が被災した。

スミス街の小林旅館・雑貨店も焼失、その被害額は約 4 万円という莫大な金額になったが、再起の決断と行動は素早く、パラマ街に旅館を新築し見事に立ち直った。

旅館経営は弟金次郎に任せようと 1901(明治 34)年 地御前から呼び寄せる。1902(明治 35)年 11 月、一時帰国。卯之助は故郷の社会資本が脆弱なこと、旧態たる政治風土を痛感、「故郷の発展に残りの人生を捧げる」という固い決意を持った。金次郎の旅館経営の能力と社会奉仕に参加する姿を見届けた卯之助は、在布 16 年ハワイに別れを告げ次なる理想を求め、地御前へと向かった。1908(明治 41)年帰国。

意欲的で革新的な発想と行動力は人々に支持され、地御前村会議員、佐伯郡議会議員 1 期、村役場助役を経て 1913(大正 2)年から 4 年間村長の職を勤め故郷の発展に尽力した。

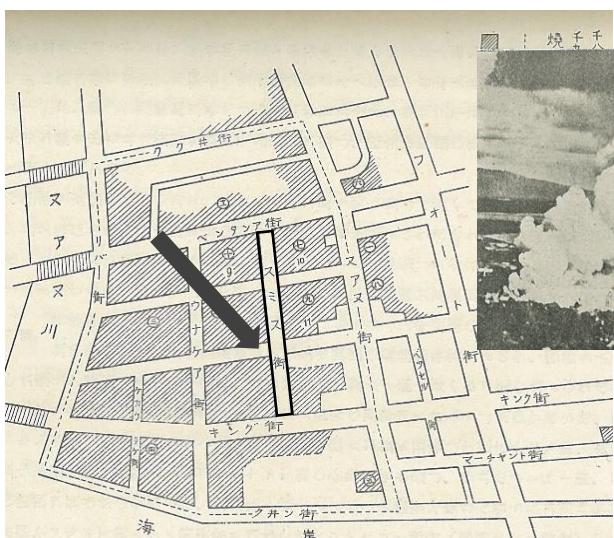
在布中には、ホノルル旅館組合長、日本人慈善会、帝国軍人後援会、ホノルル本派本願寺など各役員を歴任。実業界では、日本人銀行・布哇製麺の取締役として経営に携わった。

来府・・・ホノルルに來ること

在布・・・ハワイに滞在、居住すること

帰布・・・ハワイに歸ること

小林旅館 被災



ホノルル・ペスト焼き払い事件

被災した地域には、日本人経営の旅館 10 ・商店倉庫 29 ・時計金物裁縫店 24 料理店 9 ・集合住宅 9 ・工場など文字通りのジャバニーズ・タウンであった。

日本人社会は日本国総領事・横浜正金支店長ら実力者がリーダーとなり臨時日本人会を組織し、日本人慈善会・日本婦人会・日本人医会と連携を深め被災者の生活再建に乗り出した。

ところが、ハワイ政府は「被害額は政府が算定したものを標準として交渉には応じるが、訴訟は出来ない」と発表。

反発した日本人会は合同してハワイ議会に提訴、勝訴した。賠償金全ての支払いが終わったのは事件から 3 年 8 力月後の 1903(明治 36)年 7 月 25 日であった。

小林旅館

小林旅館はアラ公園の北側道路を隔てた南向き、オアフ鉄道のホノルル・ステーションへは歩いて数分の距離、日本行桟橋も車で5~6分という立地条件は絶好の位置にあった。

数ある旅館の中で、集客力・資金力があり日本国総領事館・ハワイ官公庁・プランテーション経営者・各種の日本人会に顔が広く、川崎・山城屋・米屋と共にホノルル・ビック4といわれた。

當利を求めるだけでなく、「オアフ島第1次ストライキ・5教師上陸拒否事件・日本語学校裁判事件」などにも物心両面の支援を惜しまず日本人社会の発展に尽くした。



創業地スミス街からパラマ街へ、さらにベレタニア街へと移転を重ねた。弟金次郎に経営を委ねる。



福岡	熊本	山口	広島
間宮七蔵	永田清 西村金太郎 高木源太郎 土山培雄 佐藤好助 松田猪七 平野宗一 川崎喜代蔵 米屋三代権	西村周助	平野久松 今村幾太郎 濱村京一 小出虎吉 山城松太郎 小林卯之助

移民は同県出身者が経営する旅館に宿泊する。そこでは同郷者の消息を知り、就職の世話を受ける事が出来た。そのため旅館数も出身県の移民数に比例した。

KOBAYASHI HOTEL
250 N. Beretania Street, Honolulu
P. O. Box 874 KANAE KOBAYASHI, Prop.
Phone 2697 TSUTOMU NISHI, Manager

日本旅館有り開業なる事
ホノルル第一

本ノルルハベタニア街タクタク(合衆館)
支配人 西力
館主 小林金力
小林ホテル
力キ
信用ある旅館
小林ホテル
館主 小林セ
一月の間の営業は
本ノルル市北レタニア街アラ公園
本ノルルハベタニア街タクタク(合衆館)
諸手帳は確実
本ノルル日本本邦業
便利用
本ノルルハベタニア街タクタク(合衆館)
本ノルルハベタニア街タクタク(合衆館)
本ノルルハベタニア街タクタク(合衆館)
本ノルルハベタニア街タクタク(合衆館)

金次郎の妻セキが再渡航して経営に采配をふるう。

カナエ・コバヤシ帰布
事業の拡大に専念。

証言 カナエ・コバヤシ



1924(大正13)年に父金次郎が死亡、母一人ではホテル業を続けてくことはむづかしかったのでホテルをリースに出し、母子6人が地御前に里帰りしました。私は地御前小学校4年に編入して広島二中を卒業早稲田大学へ進学しましたが、1937(昭和12)年日中戦争が始まったことや、翌年には国家総動員法が出来てその内、アメリカとも戦争になるのではないかという気配と、ホテルの経営の必要から1938(昭和13)年急遽帰国しました。

1942(昭和17)年軍隊に志願、工務隊を経たのちホノルルの司令部付通訳として終戦まで軍務につきました。

現在は弟と共にコバヤシ・トラベラーズを経営しています。
日系人連合協会元会長 1997(平成7)年11月 インタビュー

小林旅館の今

1980(昭和55)年旅館部門から「オアフ・ハワイ島バスツアー」を主軸とする観光ツアー事業に特化、卯之助が育てた事業は脈々と今に引き継がれている。

- 協力** 高山善裕(国立国会図書館) 松木鶴美 新見忠昭 上土井健太 川路広美
吉田禎子 佐伯剛 広島県立図書館 毎日新聞大阪本社情報調査部 久觀交通
参考文献 布哇日本人史:木原隆吉 広島銀行創業百年史 日布時事:布哇年鑑
廿日市町史 日本移民の地理学的研究:石川友紀 明治時代館:小学館
日本官僚制総合事典:東京大学出版会
広島市紳士名鑑:大野音次郎 広島県人物評伝:藤木潔済
布哇成功者実伝 布哇日本人銘鑑 ふるさとの銀行物語:田辺良平

郷土の誇り 村上銀行

佐伯郡内でも指折りの地主であった村上隆太郎は、海外移民からの多額の送金に着目。1898(明治31)年4月郡内移民送出の最多を誇る地御前村に、個人立による村上銀行を創設した。当時郡内には佐伯貯蓄銀行と大竹貯蓄銀行が開設されていたが、貯蓄銀行は直接海外からの送金取り扱いが出来ず、送金の受け入れ銀行(コルレス契約)になれば預貯金の歩留まりが多く見込まれ、そのまま貸金として運用出来、郡内の経済活性化につながると考えた。

村上個人に対する移民の信用が絶大で、開設から早くも2年後には五海市村(五日市町)、翌年には平良村(廿日市町)に支店・出張所を設けるまでになった。

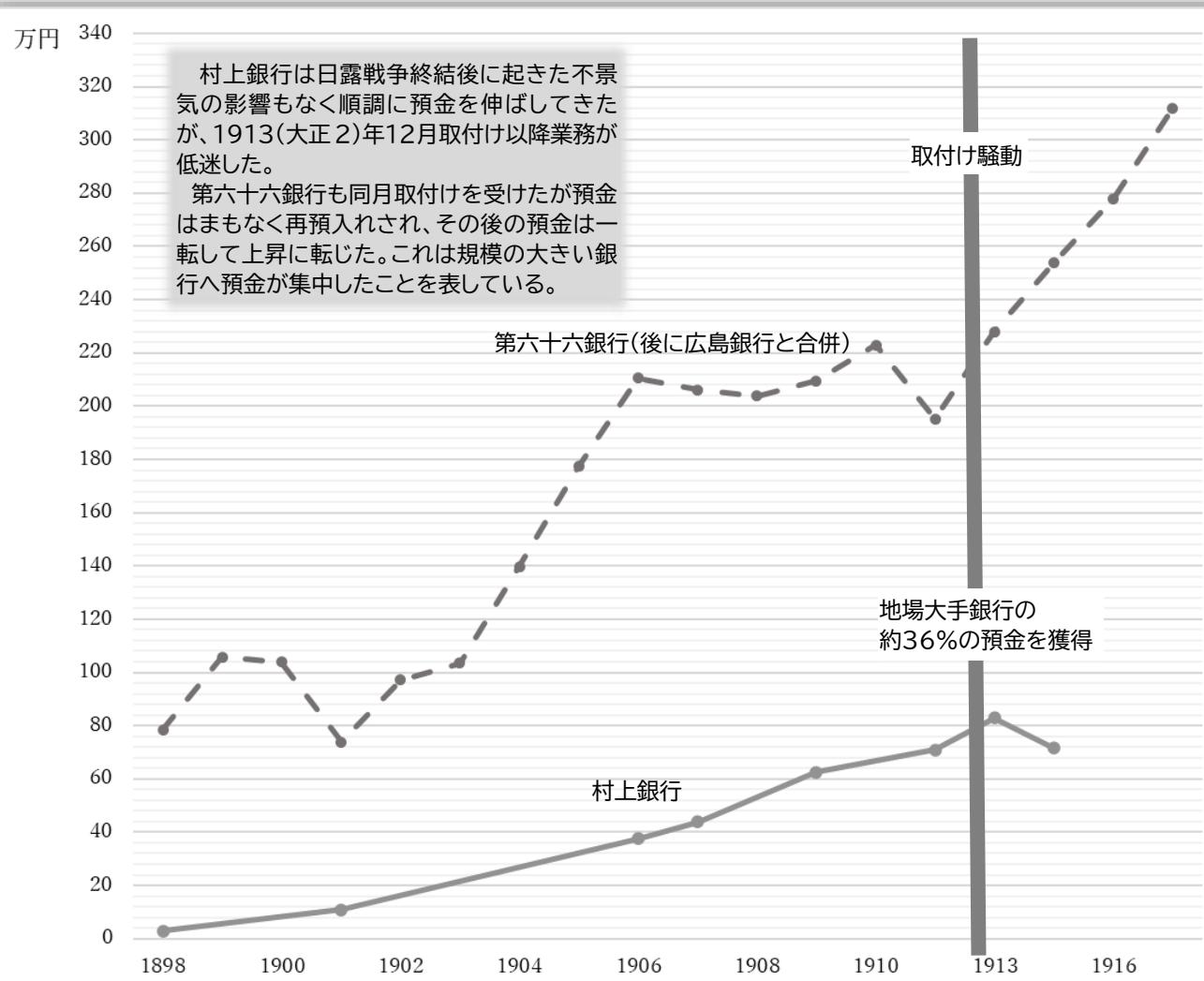
1907(明治40)年には法人化して、平良村下平良に本店を移転、佐伯郡内を中心に支店・出張所を7か所設置し店舗網を拡大した。

同行の預金・貸金残高は、日露戦争終結後の不景気の影響も全く受けず順調に推移したが、1913(大正2)年郡内で八田貯蓄銀行の取付け騒ぎが広島市内に波及したその余波と、翌年末、同行と取引きのあった山口の福松銀行の休業に端を発した流言が、同行の取付け騒ぎに発展した。

村上の信用と資金力で無事乗り越えられたが、『規模の小さい地方の銀行では激しい経済変動には対処出来ない。預金者への安全保護を最優先』という観点から1916(大正5)年広島銀行に債権債務と店舗一切を譲渡。翌年には営業権(名板)を熊本県人に売却して村上銀行を解散・清算結了した。

こうして移民の預金と債権者の債務(債権)は混乱なく、安全に譲渡され、村上自身も経済的打撃を受けず、また、名誉も傷つくことなく18年間の銀行家生活に幕を降ろした。

村上銀行と第六十六銀行(地場大手)との預金比較



※ コルレス契約 送金や外国為替を決済(代行)する銀行間契約。

※ 預貸率 預金に対する貸付金の比率。高すぎると運転資金に余裕がなく、低いと経営を圧迫する。

※ 1899(明治32)年3月、1900(明治33)年1月の銀行条例改正により銀行設立に歯止めをかけられるようになると、休業中の銀行の営業権が売買されるようになった。

広島の取付け

1913(大正2)年12月8日、八田貯蓄銀行の横川・祇園の両支店に預金の引き出しを求めて預金者が殺到、同行は鉱山や干拓、不動産事業に預金額を越える多額の融資が中心であったため、資金の固定化により運転資金が不足、たちまち払い出しが困難となり、翌年2月28日まで臨時休業を発表した。 1913(大正2)年12月11日 中外商業

1913(大正2)年12月11日 中外商業

広島市の安芸貯蓄銀行では、貸付金が預金より上回り経営にも支障をきたしていたところに、「八田貯蓄銀行の支払い停止」が伝わり取り付け騒ぎが起こった。11日に整理休業を発表した。1913(大正2)年12月12日 大阪毎日

1913(大正2)年12月12日 大阪毎日

前2行の余波を受けて広島実業銀行・広島商工は11日臨時休業を発表。広島貯蓄銀行は広島銀行の傘下にあり支払いが継続出来た。日本銀行は広島銀行に50万円、広島商業銀行に30万円を緊急支援して鎮静化を計った。

1913(大正2)年12月14日 時事新報

移民の島 周防大島でも

周防銀行は、預金306万円(大島郡内150万円)・貸付金295万円を有し1割配当を続けるほどの優良銀行であったが、預貸率が高いため手許資金に余裕がなく1913(大正2)年末一時臨時休業に追い込まれた。

固防銀行の大島郡内の休業の余波は、大島銀行にも及び預金者が払い出しに殺到した。 1914(大正3)年3月31日 時事新報

1914(大正3)年3月28日 中外商業

二度目の取付け ハワイでも報道

▲村上銀行取附（廣島鹿嶋佐伯郡）
は十二月二十三日午前十時より空
同行は資本金七十七万圓積立金一千
二千圓にして同郡五日市町、大野
村、能美嶋、大竹、地御前、小方
大柿村、嚴島町等の同郡内概要の
地に支店又は代理店を置き手廣
營業し居る爲め預金総額八十二餘
万圓貸出六十万圓ありて小銀行と
しては比較的の確實なる營業をなし
居りたるが村上一族は相當の資産
を有し居る爲信用厚かりしが同地
近在に於て村上銀行は日を閉めた
り噂するものありし由にて時恰
も年末に際し居るより流言蜚語は
夫れから夫へと傳はり斯く大事
に至りたるものなりと二十三日に
約五万圓を支拂ひ二十四日廣島によ
り約十万圓の資金を調達して持ち
歸り支拂ひに應じ居れば既下の銀

▲村上銀行 藤穂(廣島) 村上銀行の取付騒ぎは、其後二十四萬圓の支拂準備金を調達して特に忙い時間で延ばしドシ／＼支拂ひ回る爲め預金者も安心せるものゝ如く二十六日は全く沈静に歸したり。今回の取付にて二十七日までに支拂ひたる総額は約六萬圓なり。

村上銀行は「資本金17万円・積立金10万2000円・預金総額82万円・貸付金60万円」を有する小規模銀行ではあるが、頭取村上隆太郎は相当の資産を保有し、経営も堅実で厚い信頼を得ていた。ところが、昨年12月23日午前10時から突然取付け騒動に巻き込まれ、同日は約5万円の預金引き出しに応じ、翌日には広島から約10万円を調達して預金者の不安に備えた。 日布時事 1915(大正4)年1月8日

第2報

さらに24万円を追加準備。窓口での取扱い時間も延長し、全ての払い戻し要求にも制限を設げず冷静な対応をしたことが人々に安心感を与え、26日には鎮静化して通常業務に戻った。結局、払い戻し総額は約6万円であった。 同 1月14日



村上銀行 新聞が特集

▲之れ村上銀行の前身にして又同郡移民金融機關の濫觴たり。開業十有五年同行はは後速便利親切を旨として零心出特種の銀行なるより殖活正金銀行の信用専業人の爲めに計る所ありしより非常なる信用を博し其後益々業務を擴張して明治四十四年四月組織を變更して合名會社と爲せり。

▲同行は如上海外出稼人の送金を取扱ふが皆族を以てることなり。即ち町販はし便利を計るより本年六月末の預金高の如きは、八十八萬圓の巨額に上れり。殊に同行が他の一般諸銀行と異なるは社員雇用に於ける待遇の良悪より本店を

▲又組織を合名會社となすと同時に從來の地御前村は交通の便利惡きより本店を甘日市町に設置し益々業務の擴張に努力する結果現今には同郡出身の海外出稼人にして同銀行の存在を知らざるものなきは勿論縣下一般の出稼人間に信用を博し隆々として其聲名を揚げつゝあり。

▲本年六月末調査に據れば同行の預金は前記八十八萬圓にして貸出は七十四萬圓恰も一家の如く打ち壊して活動し益々信出を博し發達しつゝあるは慶可し。

深刻な不況 わが国を覆う

地方官諮詢問会

1884(明治17)年10月15日—11月3日



明治政府は、政府の施策・方針の伝達と、地方の実情を聴取把握して国政に反映させるため地方長官会議を発足させた。初回は1875(明治8)年6月20日。当初の名称は「地方官會議」、1881(明治14)年からは「諮詢問会・相談会」、明治中期からは「地方長官会議」と称するようになった。

1881(明治14)年から1901(明治34)年までは、諮詢問会形式に簡略化され同時に非公開となつた。その理由として①国会開設が規定方針となつた以上、下院と同様の会議の公開は必要がない。

②会議を傍聴するために上京する府県議員等が、国会の早期開設要求や政党活動をして世情を混乱させる傾向があることを阻止するため、といわれる。

こうした中、1888(明治21)年市制町村制公布・枢密院開設、1889(明治22)年大日本帝国憲法発布など國の原動力になる法律の制定、制度改革の一翼を担つた。

1884(明治17)年10月15日から11月3日まで開催された地方官諮詢問会には太政大臣三條實美・内務卿山縣有朋が出席し「ハワイ国移住民募集」のニュースが伝達された。

天皇陛下 地方官に御諮詢問

「一昨年末の不景気は国民生活を直撃し、その上、借金党などと名乗る不逞のやからが世上を不安に陥れ、また、先項の暴風雨洪水・冷害による農産物の凶作、漁業の不漁が追い打ちをかけている」

陛下は窮民を救い、被害地の民の生活再建に最善を尽くすようお言葉を述べられた。

田地や米価の下落、凶作、地租負担が農民を苦しめる。

商店も不景気には打つ手なし。新聞は国民生活の困難を伝える。

新聞報道

新聞報道にみる不況

大島郡の近況 防長新聞 第24号 1884(明治17)年9月5日

本郡の人口は7万人、人口密度は1方里7,000人余りと高く、とても田畠の耕作だけでは生計も成り立たない。その為、男子は大工・石工・木挽・日雇舟乗り等で出稼ぎに行き、残された女子は木綿を織り手間賃を稼いでいるが生活をするのもやっとである。こうした時に全国的な不況の影響で出稼者の日当が下がり、雇う人も少なくなり追々帰郷するものが多くなった。ますます生活は困難となり、諸税の未納者は期を迎える度に増加する。このままの状態だと1年には餓死者も出るだろう。

不景気の極 邮便報知新聞 1885(明治18)年5月26日

米価が下落して農家の困難は言うまでもないが、商店においても日常必需品さえも売れ行きが悪く、客はなく店員は店に座り開店休業の状態である。「価格を半額にしたところで販売のめどは立たず、いっそ営業を休止した方が損失は少ない」とは店主の弁。

餓民の数13万5,200余人

郵便報知新聞 1885(明治18)年5月29日

本年1月より4月30日までの期間、各府県より報告があつた中で、財産を失い生活の道なき者、13万5,200余人である。

○聖上には此頃の各地方の民情等を御諮詢あり特に一昨年末一般不景気は至りて借金黨など唱ふる貧乏地の人民にして飢餓に陥るやうの事はあきらめ難く最も畏る御酒肴等と賑とのよし乍ら廣く厚く御事あらずや

朝日新聞 1884(明治17)年11月2日

ハワイ日本人移民史(拙著) p.63

布哇国出稼人 邮便報知新聞 1885(明治18)年5月29日

『横浜』来月2日出航予定の山城丸(第2回船)で渡航する人々が各地より多数集まっている。これは、目下の地方の不景気を反映している。

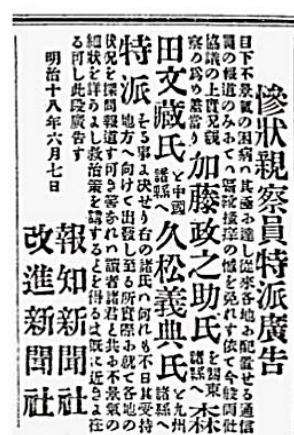
田地の下落 邮便報知新聞 1885(明治18)年6月3日

今はどこの地方でも田地の下落は甚しいが優良農地を持ち豪農が多い新潟県蒲原郡でさえも大幅に下落している。これまで、400円で売買されていた田が今や150円でも買入人が現れない。ある豪農が1万5,000円で購入した田を5,000円の抵当に入れたが支払うことが出来ず抵当流れになつたが、5,000円でも買い手がつかない現状だ。

周防東部の景況 防長新聞 第156号

1885(明治18)年6月9日

玖珂郡柳井町近傍・熊毛郡室津上ノ関・久賀村・安下庄などの農民漁夫の食事は糠・藁麦粕・豆腐滓等に木の葉・草の葉をまぜて常食としているところがある。



郵便報知新聞
1885(明治18)年6月7日

深刻さを増す不景気、効果的な対策を取るために支局通信員の報道に頼つていてはおぼつかない。関東・中国・九州方面へ3人の敏腕記者を現地に急派、実状を精査して報道する。